

所得税・市県民税の申告

3月15日(火)まで

確定申告

所得税の確定申告、市県民税（兼国民健康保険税）の申告をお忘れなく！

◎申告の必要がない人
① 税務署へ確定申告をした人
② 前年中の所得が給与だけの人で、勤務先から給与支払報告書が南島原市に提出されている人
③ 前年中の所得が公的年金だけの人で、年金支払者から公的年金等支払報告書が南島原市

※給与所得者で給与以外の所得が20万円以下である所得税の確定申告が不要な人でも、市県民税の申告は必要です。

市県民税の申告

◎申告が必要な人

今年も所得税の確定申告、市県民税（兼国民健康保険税）の申告時期が近づいてきました。混雑の緩和と利便性を図るため、10、11ページの日程で、申告・相談の受け付けを行います。早めの準備と、やむを得ない場合を除き、指定日時の申告をお願いします（土日は休みとなります）。
なお、口之津町、加津佐町の受け付けの日程が例年より早くなっていますので、ご注意ください。

早めの準備で正しい申告

市県民税の申告

◎申告が必要な人

① 平成22年中の合計所得が、各種所得控除（基礎控除、配偶者控除、扶養控除など）の合計を超える人
② 給与の年収が2000万円を超える人
③ 土地や建物などを売った人
④ 1力所から給与を受けていて、給与所得や退職所得以外の所得合計が20万円を超える人
⑤ 2力所以上から給与を受けていて、年末調整をされなかった給与の収入金額と各種の所得金額（給与所得、退職所得を除く）との合計が20万円を超える人

◎申告が必要な人

所得税の確定申告

※②、③の該当者であっても、雑損控除・医療費控除などの控除を受ける場合には、申告が必要です。

消費税に関する相談会を行います

■ 受付時間 午前9時～午後4時

期 日	受 付 会 場
2月8日(火)	口 之 津 庁 舎
2月14日(月)	加津佐総合福祉センター
2月18日(金)	有 家 庁 舎
2月24日(木)	西 有 家 庁 舎
2月25日(金)	南 有 馬 庁 舎

確定申告でわからないことがありましたら、税務署、税務課または各支所を会場に、記載方法などの相談を行いますので、申告に必要な書類などを準備しておいでください。

☎ 税 務 課 ☎050(3381)5023

島原税務署 ☎0957(62)3281（自動音声にてご案内します）

●確定申告に関するお問い合わせは「0」 ●国税に関する一般的なご相談は「1」

●税務署からの照会やお尋ねまたは職員にご用の場合は「2」

インターネットでも確定申告書などの作成ができます！ 国税庁ホームページアドレス <http://www.nta.go.jp>

※毎年3月に入ると窓口は大変混み合います。
早めに申告書の提出をお願いします。

申告に必要なもの

- 印かん
- 源泉徴収票原本（給与や年金収入のある人）
- 収入、支出が明らかになる帳簿、領収書など所得算定に必要なと思われる書類
- 控除を受ける国民年金保険料控除証明書、生命・地震保険料の支払証明書、医療費領収書など（医療費控除を受ける場合は、個人別、病院別に領収書を仕分けしてください）。
- 金融機関預金通帳（還付時の口座確認のため）



南島原市から世界遺産を！
長崎の教会群とキリスト教関連遺産

天正遣欧少年使節4少年の生涯 「原マルチノの生涯」



波佐見の陶郷 中尾山 wan撮影

「ハザミの町に生まれ」「ナカズカサの子、16歳」
原マルチノが生まれた資料は、日本にはありませんが、少年使節のことを記録した「ポローニャ元老院日記」にマルチノのことが書かれています。



原マルチノ像
[波佐見町総合文化会館] wan撮影

今回は、肥前国波佐見の生まれで、天正遣欧少年使節の中では最も若かった「原マルチノ」。ラテン語など、外国語を自在に話す「秀才」といわれた原マルチノを特集します。

ことから、父が大村領（今の波佐見町）の名士「原中務」の子だということがわかってきます。原マルチノの両親は共にキリスト教徒であったこともあって、マルチノは司祭を目指して有馬のセナリヨに入りました。

「原マルチノの演説」として今も残る

ローマからの帰る途中、1587年にインドの「ア」で、4人は恩あるヴァリニャーノに対して、感謝の演説をすることにします。そのとき、4人を代表して演説をしたのが原マルチノでした。ラテン語で行われたその演説は、ヨーロッパから持ってきた印刷機で次の年に出

マカオに死んだ日本人司祭



「原マルチノの演説」表紙
筑波大学附属中央図書館蔵

版されました。印刷したのは、使節に同行した諫早出身のド・ラード（9月号で紹介）とされています。グーテンベルクの活版印刷を発明してから1世紀半、この書物が、日本人が印刷した初めての活版印刷物とされていて、現在も残っています。

とから、マルチノをコレジヨの院長にしてはどうかという声もあったほどです。当時、日本で一番のヨーロッパ語の達人だったことはまちがいありません。マルチノが優秀であったことを示す話が一つあります。1614年、徳川幕府の禁教令で外国人の司祭が国外退去を命じられたとき、日本人であるマルチノをマカオにつれて行きます。それは、優秀すぎるマルチノが日本人司祭の新たなリーダーとなることを心配したのだと言われています。

マルチノは、マカオでも日本語の本の印刷・出版を行っていました。1629年に同地で亡くなりました。マルチノの遺骸は、マカオのサン・パウロ教会の大聖堂の地下にヴァリニャーノと共に葬られました。このことは、原マルチノの功績がどれだけ大きかったかをあらわしています。

* 出典：「旅する長崎学」長崎文献社、「ローマを見た天正少年使節」結城了悟 日本二十六聖人記念館